

国際連携大学院 FD ネットワークプログラム 第5回 海外 FD 研修報告書

2011年4月6日
生命先端工学専攻 助教 杉山 峰崇

2011年3月7日から3月20にかけて、米国カリフォルニア州立大学フラートン校（CSUF）にて行われた海外 FD 研修に参加した。本研修の目的は、CSUFで行われている教育に関する取り組みを見学し、さまざまなトレーニングを受けることによって、英語による教授方法のスキルアップを目指すものである。本研修では、参加者に CSUF の教授がメンターとして割り当てられ、その教授の授業を見学し、その授業中に FD 研修で習得したスキルを使ってゲストレクチャーをすることが課せられている。私のメンター教授は、微生物学が専門の Dr. Marcelo E. Tolmasky となり、Advances in Microbiology という 4 年生と大学院生が学ぶ授業に参加することになった。

私に与えられたクラスは、FD ワークショップと呼ばれる学生の能動的学習意欲を引き出すことに主眼をおいた米国式の教授方法のクラスが 7 回、主にスピーキングに焦点を当てた英語そのもののスキルアップを目指す英語クラスが 6 回、生物学などの授業見学が 4 回、そして、メンター教授の授業見学が 3 回とゲストレクチャーが 1 回と非常に充実した内容のプログラムであった。



写真1. 英語クラスの Cindy 先生と



写真2. Kathi 先生の授業でのディスカッション風景

FD ワークショップでは、教師とはどのようにあるべきかという問いかけから始まり、学生を能動的に授業に関わらせるためのテクニックに続き、後半は、効果的な授業を行うための新しいテクノロジーの導入についてや授業の理解度を知るためのさまざまな評価方法、そして最後にまとめとして、習ったことを

用いて今後、自分の授業をどのように変えて行くのかについて発表を行った。教育方法については残念ながら講義を受けたことがなかったことから、非常に有益であった。また、能動的学習に向けて、授業を組み立てる必要があることを痛感した。Web やクリッカー（学生が一台ずつ持っている端末であり、クイズなどに回答すると、その場で集計結果が得られる）などのテクノロジーを用いたクラスについても、得るものが沢山あった。

私にとって最も即効性があったのが、英語クラスであった。担当の先生は、英語のスピーキングで日本人が間違いやすい個所を熟知していたことから、非常にためになった。英語はリズムが重要であることを再認識させられた。また、プレゼンテーションの一般的なフォーマットについても講義を受け、ボディランゲージはスピーキングよりも重要である（スピーキングがあまり素晴らしくない場合には特に）という話には感銘を受けた。今度から、身振り手振りを交えて話すように心掛けようと思った。

授業見学は、1年生向けの生物学の授業に2回、クリティカルリーディングの授業に1回、そして、文系で行われている科学専門用語のリーディングの授業に1回参加した。まず、授業中の学生のアクティビティーの高さに驚かされた。また、先生も、ディスカッション形式を多用し、クイズなどを取り入れることによって、学生が自ら考え、能動的に授業に参加し理解が得られるようさまざまな工夫を凝らした授業を行っていた。今後の授業のために非常に参考になった。一方、広い教室でもマイクロフォンやポインターをほとんど使わないことにも驚いた。



写真3. ゲストレクチャーにて



写真4. ゲストレクチャーにて

メンター教授の授業では、Advances in Microbiology という4年生と大学院生30名程度が学ぶ授業を2回と Seminar in Microbiology という大学院生5名程度

が学ぶ雑誌会に近い形態の授業を 1 回見学する機会を得た。学生の理解が得られるまで、繰り返し色々なアイテムを用いて異なる方法で説明していた様子が印象的であった。ゲストレクチャーでは、アテンションゲッターやボディーランゲージ、質問など研修で学んだことを取り入れた結果、興味を持って私の話を聞いてくれたのではないかと思う。また、私の課題であった Q & A もクリアできたことから、研修の効果が実感できうれしかった。

ホテルは非常に快適であり、カリフォルニアのハンバーガーも文句無しにおいしかったことから、期間中は不便なく滞在できた。週末には、南にあるサンディエゴまで遠足に行き、オールドタウンで昔の街並みも楽しめた。本海外 FD 研修は、英語だけでなく日本語での授業においても役に立つさまざまな情報を得ることができたことから、非常に実り多いものであった。今回学んだことを忘れることなく、さらに自分で改良を加えて、よりよい授業をできるように努力していきたい。

今回の FD 研修で素晴らしいプログラムを提供していただいた、CSUF のスタッフにお礼申し上げたい。また、本研修で一緒させていただいた岡澤 敦司先生、永富 隆清先生、小関 泰之先生、藤枝 伸宇先生には道中大変お世話になった。最後に、このような貴重な機会を与えていただいた本プログラムの代表である金谷 茂則教授とサポートいただいた松本 玲子さんに感謝申し上げます。